# 組合員の思いがこもったカンパ金を届けました

## 関東・東北豪雨に伴う鬼怒川水害被災地支援報告

2015年9月10日、台風18号の影響で発生した関東・東北豪雨に伴って、茨城県常総市などで大規模水害が発生しました。グリーンコープは災害直後にメーカーなどの協力を得て衣類や衛生用品などの緊急物資を現地に届けました。

また、組合員にカンパを呼びかけ、2141万9300円の募金が集まりました。カンパ金を使って、現地で支援活動をする団体を通して、必要な物資の支援を続けてきました。災害発生から5ヵ月が経過した2月、現地で支援を継続している4団体に残りのカンパ金を贈呈することにしました。

2月5～6日に共同体代表理事田中裕子さんが現地を訪れ、組合員の思いと共にカンパ金を手渡しました。4団体の活動の様子を紹介します。

### 水が引かず住宅や水田の被害が甚大に

常総市北部で発生した鬼怒川の氾濫と堤防の決壊により、南部の水海道（みつかいどう）地区に水が流れ込み被害は拡大。住宅の床上浸水は5000軒に上り、水が引くまで2、3日かかった。

水が引いた後は1階が使えない状態で、今でも2階で暮らす人も多い。避難所には食料や物資が届いたが在宅被災者には何も届かなかった。

床上浸水した家は床をはいで床下を乾かし、石灰をまいて床を直すことになるが、壁の断熱材が水を吸っている場合は壁も壊して作り直さなければならない。費用がかさむためとりあえず床だけ直して住んでいる人も多く、梅雨時期にはカビの発生による健康被害が心配されている。

また、広大な田んぼは湖のように水に浸かり、米の収穫時期だった農家は収入が絶たれてしまった。用水路の整備や揚水ポンプの復旧は進んでいない。水に浸かった高価な農機具も修理できず、今後、離農者が増える可能性がある。

常総市の水害の様子

### 組合員の思いが活かされる

グリーンコープ共同体 代表理事
田中裕子さん

現地に行って、被災した人や支援を続ける人たちの話を聞き、復興には長い時間が掛かるということが分かりました。ボランティア団体の人たちの、困っている人に寄り添い、自費で弁当を配ったりする行動力と熱意に凄いパワーを感じました。

組合員のカンパ金は今回届けた4つの団体を通して、必要な人に必要な支援をしたいという組合員の思いが活かされていきます。

## （株）あおば　高齢者の孤立を防ぐために

宇田川真由美さんに支援金の目録を渡す

17時～21時に、80食（20世帯分）の弁当と温かい味噌汁を配った

常総市に隣接する下妻市で、介護施設と美容院を経営している宇田川真由美さんは、行政の手の届かない在宅被災者に、緊急支援として毎日80食の弁当を自費で作り仕事が終わってから配達。被災者が孤立しないように状況確認をして必要な物資の支援をしていた。配食は10月末で一旦終了し、衣料配布会や情報交換のカフェなどの活動を続けている。今後も高齢被災者に寄り添い孤立を防ぐため、集落ごとの物資支援、サロン活動、見守り支援を続けていく。

## 認定NPO法人　茨城NPOセンター・コモンズ

### 地域のボランティアセンターとして

コモンズは水海道地区で長年子どもや外国人支援を続けてきた団体。災害後すぐにコモンズ内に、たすけあいセンター「JUNTOS※」を立ち上げ、延べ70の県内外ボランティア団体を受け入れ、情報交換や連携の場とした。被災者にアンケートを取り、行政に提言なども行っている。今後は家の修理や、行き場のない高齢者の一時避難所となる地域のコミュニティ作りに取り組んでいく。

※ポルトガル語で「一緒に」という意味

代表の横田能洋さんに目録を渡す

大工ボランティアが床板をはがしている様子

## NPO法人チームレスキュー　避難所運営から見守り支援に

専務理事の小野隆史さんに目録を渡す

石下体育館では、高齢者は畳の道場、外国人は2階と生活スペースを分けてストレス軽減に努めた

愛知・京都の学生を中心とするボランティア団体で、主に災害現場に駆けつけて初期対応を担う。今回は、ヘリコプターで着の身着のままで救助された人の避難所となった石下体育館の内部運営を任され、体育館に泊り込み24時間体制で対応した。行政からの支援は無くすべて自費とカンパで活動。12月7日に避難所が閉鎖になり、残っていた約80人は修理の終わっていない自宅や見なし仮設（旅館など）に移った。今後もその人たちの見守り訪問や物資の支援を続ける。

## ジャパンホープ

### ボランティア団体と連携して

代表の服部浩之さん（左から2人目）と農機具修理ボランティアの皆さんに目録を渡す

数千万円の農機具が何台もある。テクニカルチームが農家と相談をしながら修理にあたる

他のボランティア団体と協力して、行政からの支援が届かない企業・農家・民家の支援をしている。

水海道地区の住宅地にあるTシャツプリントの工場では、Tシャツ10万枚が水に浸かった。常総市から災害ごみではなく産業廃棄物として処分するように通知されて、高額費用がかかるうえに、常総市を介したボランティアは個人事業主には派遣がなく途方に暮れていた。ジャパンホープの代表服部浩之さんはその状況を知り、ボランティア仲間を集め片づけの支援に入った。「Tシャツを洗って、少しでも販売できないか」と、常総市にある染色村の職人に染色を依頼するなど、付加価値を付けて販売している。

また、洪水で田畑に流れ込んだごみ撤去の支援や、ボランティア仲間でエンジニアを募り農機具の修理なども行っている。

## カンパ金の活用状況

カンパ金合計　21,419,300円

| | 2015年12月までに使われた金額（円）とその使途 | | 今回の贈呈額（円） | 今後の活動 |
|---|---|---|---|---|
| ㈱あおば | 1,483,014 | 毛布、調味料、生活雑貨セットなど | 2,880,000 | 衣類配布会、情報交換のカフェの開催。お年寄りの方々の孤立を防ぐ取り組み |
| コモンズ | 0 | | 5,000,000 | ボランティア受け入れ、支援団体の連携、移送サービス、家修理、炊き出し、学習支援 |
| チームレスキュー | 0 | | 2,000,000 | 引越し支援、在宅及び見なし仮設住宅訪問支援、炊き出し、弁当配達 |
| ジャパンホープ | 387,720 | 土嚢袋、パレット、ハンドリフト、ダンボール箱など | 2,000,000 | ボランティアの確保、企業・民家・農家の片付け、農機具修理 |
| オープンジャパン | 298,754 | ホットカーペットなど | 0 | コモンズの中での活動 |
| 協働プラットホーム | 1,390,067 | 避難所、ボランティア団体への物資 | 0 | 活動終了 |
| 生活クラブ生協 | 0 | | 1,000,000 | |
| | 合計3,559,555 | | 合計12,880,000 | |

支援費用合計 16,439,555円　残金 4,979,745円
残金は必要に応じて使用し、残ったお金は1年後の活動状況に応じて支援活動費として追加贈呈する予定